

指標 11.c.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 11.c.1 都市インフラ又は都市インフラ計画での支援における ODA 及びその他の公的フローの総額（部門別）

ターゲット 11.c 財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靱（レジリエント）な建造物の整備を支援する。

ゴール 11 包括的で安全かつ強靱(レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する

定義及び根拠

○ 定義

都市インフラ又は都市インフラ計画での支援における ODA 及びその他の公的フローの総額（部門別）の支出総額の合計

○ 概念

OECD 開発援助委員会（DAC）は、ODA を、DAC・ODA 受取国・地域リストに掲載された国及び地域、並びに、国際機関に対する資金の流れのうち、次の条件を満たすものと規定している。

- i) 国及び政府の政府等の公的機関、またはその執行機関によって供与される。
- ii) 開発途上国の経済開発と福祉の促進を主目的とする。また、譲許性を有し、グラント・エレメントが 25%以上（割引率 10%で算出）。都市インフラに関連するセクターコード（CRS 200 台）及び住宅、都市交通、給水/衛生、廃棄物管理、都市地域向けエネルギーなどに対応する目的コード。

○ 根拠及び解釈

ODA の概念は、時間の経過とともに進化し、世界の開発状況の変化や援助国の優先事項の変化を反映している。ODA は依然として重要な開発資金源であるが、その効果はプログラムの実施の質と地域の開発優先事項との整合性の程度に依存する。意図した開発成果を達成するために ODA 資源が効率的かつ効果的に使用されることを保証するためには、ODA プログラムの厳格なモニタリングと評価が不可欠である。

部門別の ODA は、経済部門別に分類された二国間 ODA コミットメント

の分配として定義される。これらのデータは、CRS に基づいて報告された個々のプロジェクトの集計であり、技術協力の部門別分配、及び食糧と緊急援助の支出額に関する報告によって補完される。提供される財・サービスの種類を指すものではない。この指標は、2021 年を基準年として、百万米ドルの不変価格で測定される。

データソース及び収集方法

OECD/DAC は公的資金及び民間資金の流れについて、1960 年から合計額レベルで、1973 年からは Creditor Reporting System を通じた案件別レベルで、データを収集している（CRS データは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年から、完全なものと見なされている）。

ドナーによるデータの報告は、同一の基準及び手法で行われる。

データの報告は、国の行政機関（援助機関、外務省、財務省など）の統計報告者により、毎暦年ベースで行われる。

統計報告者は、各ドナー国機関におけるデータ収集に責任を負う。

この統計報告者は通常、国の援助機関、外務省、財務省などに配置されている。

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

都市インフラ又は都市インフラ計画での支援における ODA 及びその他の公的資金の流れの合計（部門別）

○ コメントと限界

Creditor Reporting System のデータは 1973 年から利用可能。

ただし、案件別レベルのデータの捕捉が完全であると見なされるのは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年からである。

データの詳細集計

この指標は、ドナー、受取国、資金種別、援助分類などに分解可能。

参考

URL: www.oecd.org/dac/stats

参考: 全てのリンクはこちらから:

<http://www.oecd.org/dac/stats/methodology.htm>

データ提供府省
外務省

関連政策府省
—

担当国際機関
国連人間居住計画 (UN-Habitat)